



FUNNOVATE™
LAB



bear 0.91

bear 0.90

bear 0.90

人命救助
防災DX
AI検知

災害被災者及び害獣を検知するAI「S-CATCH」

災害被災者・害獣のリアルタイムAI画像解析技術

エス キャッチ

豪雨災害や地震など大規模な激甚化する自然災害の現場において、災害被災者を迅速に発見できる探索技術が求められています。また、近年では人里に侵入するクマによる人身被害件数が急増していますが、目視による経緯対策は限界を迎えている状況です。「S-CATCH」は、ドローンや定点カメラの映像から、救助対象となる被災者やクマなどの野生動物をAIが即座に特定し、位置情報を検知・通知する技術です。本技術によって、災害時や平常時の地域の安全を支えます。

これまでの問題点

生存を隔てる「災害発生から72時間」

阪神・淡路大震災の教訓から、災害時の人命救助では発災後72時間が重要な目安とされています。時間の経過とともに救命率は低下するため、救助の現場では迅速かつ網羅的な探索が求められます。

増加する獣害と人身被害

クマが人里へ進入したことで起こった人身被害の件数は過去最悪の水準にあり、シカやイノシシなどによる農業被害も深刻です。少子高齢化でハンターや見回り要因が不足し、目視による巡回・警備には限界を迎えています。



▲土砂崩れや倒壊した建物から被災者を速やかに発見することは困難



▲獣害対策は農作物被害だけでなく人命にも関わる防災上の課題



EJEC

株式会社

エイト日本技術開発

岡山本店 〒700-8617 岡山県岡山市北区津島京町3-1-21

TEL. 086-252-8956 FAX. 086-252-8932

<https://www.ejec.ej-hds.co.jp/>

お問い合わせは、お近くの事業所までお願いいたします



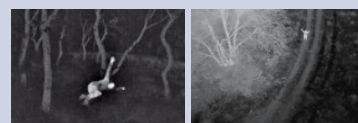
定点カメラやドローン搭載カメラの映像を転送し、AIが即時に解析することで、遭難者や被災者、動物の早期発見につなげます。熱赤外線カメラを活用することで、昼夜を問わない捜索や、管理者や警察へ通知する仕組みも構築できます。



◀MAVIC3T

- ・全方向衝突回避機能のあるドローン
- ・**熱赤外線カメラ**に加え**通常カメラ**搭載

熱赤外線カメラだけでは目視確認が困難な場合がある



物陰に隠れた状態や指、頭といった部分的な情報でも人間を検知

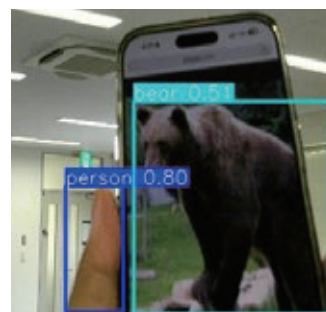
物陰に隠れた状態でも人間を検知することができます。
150m離れた場所でも検知可能です。

複数種別を判断することができる

スマホのクマ画像でもクマを検知し、スマホを持つ指は人間として検知します。

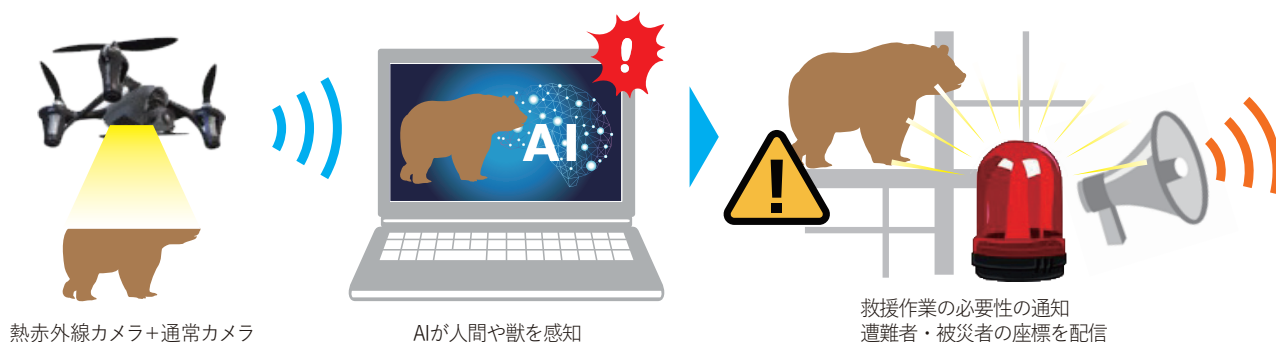


▲150m離れた人間を検知
※現地状況による



▲スマホ画像からクマを検知し、指から人間を検知

LIVE画像をAIに転送し、自動で被災者やクマなど通知



写真や位置情報を共有し、救援対応をサポート

現場作業におけるクマ対策のご提案

検知・通知機能だけでなく、カメラ画像からAIにより不審者やクマなどの獣を検知した場合に大音量スピーカー付きパトランプを作動させるシステムを構築しました。このシステムを調査現場へ導入することにより橋梁点検など現場作業時の迅速な退避・注意喚起などの初動対応が可能となります。



▲橋梁点検現場の環境事例



▲AIで人間を検知



▲180° 魚眼レンズカメラ



▲AIでクマを検知